

人はなんで子守唄を歌うのか？

—スコットランドと日本の 子守唄比較研究へのいざない—

日時：2018年1月25日（木）14:40～16:10

会場：国際関係学部棟2階3219講義室

講師：鵜野祐介氏（立命館大学文学部教授）

子守唄といえば「幼い子どもを眠りにつかせるために歌われる穏やかで愛らしい唄」というイメージがある。ところが、スコットランドにも日本にも、そんな固定観念を覆すような内容の唄がいくつも伝承されている。それは何故か？子守唄を歌うことで、相手に何を伝えようとしてきたのか、また子守唄を歌い継ぐことはどのような働き（機能）を果たしてきたのか？スコットランドと日本の伝承子守唄を聴いてもらい、また一緒に歌いながら、両者の文化的個別性や土着性について考えるとともに、社会や時代を超えた「子守唄の原像」を探る。さらに子守唄を歌うことの今日的意味についても問うてみたい。

講師紹介

専門分野：教育人類学、伝承児童文学

単著：『日中韓の昔話—共通話型三〇選』みやび出版、2016年。

『昔話の人間学 いのちとたましいの伝え方』ナカニシヤ出版、2015年。

『子守唄の原像』久山社、2009年。

共著：『グリム童話と表象文化 モティーフ・ジェンダー・ステレオタイプ』
勉誠出版、2017年。

『ファンタジーとアニメーション 古田足日「子どもと文化」の継承と発展』
童心社、2016年。

翻訳：ノラ&ウィリアム・モンゴメリー編著

『スコットランド民話集 世界の果ての井戸』朝日出版社、2013年。

お問い合わせ：国際関係学部 米山 (yoneyama@u-shizuoka-ken.ac.jp)

どなたでもお気軽にご参加下さい！